

■校区の課題や目標の共有について

1. これまでに出された意見（中間とりまとめなどより）

- ・ある地域で10年前にワークショップがあり、小学校6年生の女の子が二人、自主的に参加していた。その子たちが10年たった今、地域活動を担っている。自分たちで計画をつくったからだろう。
- ・将来を担う若い人たちの視点もないと、机上の空論に最終的には終わってしまうのではないかと。
- ・若い人を強制的に入れるのではなくて、どのような形で発掘して参加していただくかが大事。
- ・（地域の目標や計画づくりについて）一部の人だけでつくる計画とならないよう、また、それが地域のやらされ感につながってもいけない。
- ・ワークショップについて、まちづくりに詳しく、参加者にやる気を起こさせるような講師であれば活動者が増え、地域がとても活性化する。
- ・地域の方々の意向を十分に聞きながら、それぞれ地域に合った目標をきちんと立てるべき。
- ・今までどおりの活動だけで精一杯になっているのが7割だと思う。そろそろイノベーション、変革が必要。地域の変化にいち早く気づき、思い切って変えていくということ。
- ・まちづくり計画や将来像を前面に出す必要が出てきた時代かなと、非常に重要だと思っている。
- ・（地域の目標や計画づくりについて）目標を立てるのが目標ではなく、高齢者や若者、子どもなど様々な住民の意見をどうやって取り込むか、つくるまでのプロセスがとても大事。
- ・（地域の目標や計画づくりについて）これは人材育成だと思う。プログラムそのものが人材育成のプログラムになっており、それを1年もやれば人が育っているはず。
- ・地域の課題や目標を明確にし、地域活動の「見える化」を図る。

2. 求められる取り組みなど（中間とりまとめより）

- ・住民であれば誰でも自由に参加できる「まちづくりワークショップ」等の開催
（※ワークショップで議論した結果をまちづくりに活かしていく）
- ・住民全員アンケートの実施
- ・まちづくりを専門とするファシリテーターの派遣
- ・住民自ら策定する地域の目標や計画づくりと、計画に基づくコミュニティ活動の実施など
（地域まちづくり計画（地域コミュニティ計画）など）

3. 現状

【目標像や活動方針、まちづくり計画の策定状況】

- ・平成26年度自治協議会等アンケート調査では、「定めている」が53.5%、「定めていないが、今後定めたい」は24.4%となっている。

【地域包括ケアシステム実現に向けた取り組み】

- ・地域包括ケアシステム実現のための『高齢者地域支援会議』の設置や社会福祉協議会における『校区福祉のまちづくりプラン』などの策定等に取り組んでいる校区もある。

【避難行動要支援者名簿の作成】

- ・東日本大震災の教訓を踏まえ、避難行動要支援者名簿の作成が市町村に義務付けられており、現在、その取扱いの検討を行っている。

【「FUKUOKA NEXT」】

- ・経済的な成長と質の高い暮らしのバランスがとれた都市を目指して、福岡市を次のステージへと飛躍させるチャレンジ「FUKUOKA NEXT」を展開している。

4. 取り組みの具体的なイメージ

校区課題の共有と地域活動に対する理解促進

- ・地域住民が**校区の現状や課題を共有するため**，校区単位の情報进行整理し，校区の魅力や活動等の情報を合わせた校区データ集を作成する。
- ・地域住民が**校区の将来像を共有するため**，校区データ集を活用し，「校区ビジョン」を作成する。

校区ビジョン

- ・校区の「魅力」や「防災・福祉」の安心安全などを含めた，まちづくりの「将来目標」や「目標実現に向けた具体的な活動」

※これらの取り組みの中で，様々な人材を巻き込んだワークショップを開催し，新たな地域人材の発掘につなげる。

校区ビジョンを実現するための取組

- ・校区ビジョンを実現するための地域における具体的な取り組みについては，市役所全体で支援を行う。

【イメージ図】

